『イリュストラシオン』図版解説

1843 年の創刊以来ほぼ一世紀にわたって休むことなく刊行を続けた『イリュストラシオン』は、記事の内容もさることながら、媒体それ自体が歴史の証人である。ここでは出版技術の革新を示す図版とともに、本文中で触れることのできなかった 19 世紀後半から 20 世紀にかけてのこの新聞のいくつかの側面を紹介しよう。

カラー図版の出現

1884 年、『イリュストラシオン』にカラー図版が登場した。右は 1886 年 12 月 4 日付のクリスマス特集号に含まれる《素敵な一瓶》と題された全面カラー図版。酒瓶から注がれるワインに目を細める老夫婦の姿がお祭り気分にふさわしい。この号は、この種の全面カラー図版が 7 枚（うち 2 枚は見開き）掲載された豪華版となっている。



クリスマスのカラー図版 2284 号（1886.12.4）

写真の出現

19 世紀前半に発明された写真は、イメージの歴史に革命的変化をもたらした。『イリュストラシオン』でも 1853 年に写真の複製画が、1884 年からは実際の写真が登場する。とはいえ当初は画質が悪く、木版画のクオリティには対抗できなかったため、大々的にこの新技術が用いられるのはさらに後のこととなった。下はともに 1905 年の紙面に登場した日露戦争とロンドンの鉄道事故の写真。生々しさが伝わってくる。



日露戦争 戦場写真　3237 号（1905.3.11）



ロンドン チャリング･クロス駅 事故 3277 号（1905.12.16）

海外事情

日露戦争もその一例であるが、『イリュストラシオン』は、創刊当初より海外事情を積極的に報道した。その中には北アフリカに関する記事のように、植民地支配と密接に結びついたものもある。これは「マレー諸島の舞踊と音楽」と題されたアレクサンドル・コーエンの記事と写真図版（1905 年 3 月 31 日）。当時の人々の「未開」に対する視線と関心が見て取れる。



マレー諸島の舞踊と音楽　3292 号（1905.3.31）

文化・芸術

本文中でも述べたように、文化・芸術欄は『イリュストラシオン』の主要な柱の一つであるが、1910 年 2 月 12 日号は紙面を 50 ページに増量し、エドモン・ロスタンの戯曲『シャントクレール』特集を組んだ。以下の図版はこの劇作品のための登場人物（雄鶏が主人公）や舞台装置のスケッチならびに写真。有名作家の久しぶりの作品とあって、報道の力の入り具合が伝わってくるが、興行的には失敗であったとも伝えられている。



エドモン・ロスタンの戯曲「シャントクレール」掲載号　3494 号（1910.2.12）